

果樹農家のみなさまへ、時季ごとの耳より情報をお届けします



再度、せん孔細菌病対策の徹底を！



- 今月も引き続きボルドー液によるせん孔細菌病の防除をよろしくお願ひします。
- 本年も県下全域でせん孔細菌病が発生しました。9月以降、県内における台風被害は少なく、強風による大きな影響は見られていません。しかし、梅雨の時期の雨が多かったことから、病原菌がほ場全体に広がっていると考えられます。
- 薬剤防除は葉柄痕からの病原菌の侵入を防ぎます。412 ボルドー液を9月中旬以降、2週間置きに2回散布します。その後、台風などの強風や落葉が遅い際には、さらに1回追加散布します。
- 今年、発生が少なかった地域・ほ場でも、油断せずに今後に備えて秋季防除を徹底しましょう。



モモせん孔細菌病発生果
(川中島白桃)



412式ボルドー液による
秋防除



どのように草は枯れるのでしょうか？



- 収穫後でも11月下旬まで草は伸びますので除草作業が必要です。
- 除草剤では、入手しやすいこともあり、ランドアップなどグリホサート系の薬剤がしばしば使われます。散布後の枯れるまでのメカニズムは以下のとおりです。
- 植物が生きるためにはタンパク質が必要です。タンパク質は20種類のアミノ酸がつながって作られます。グリホサートはアミノ酸の生成経路を途中で妨げるので、トリプトファン等3種類のアミノ酸が作られなくなります。
- その結果、草は自分の体を健全な状態に維持していけず根とともに全体が枯れてしまいます。
- アミノ酸はすぐには欠乏しませんので散布後、反応が現れるまで1週間ぐらい必要です。寒くなるとさらに時間がかかります。

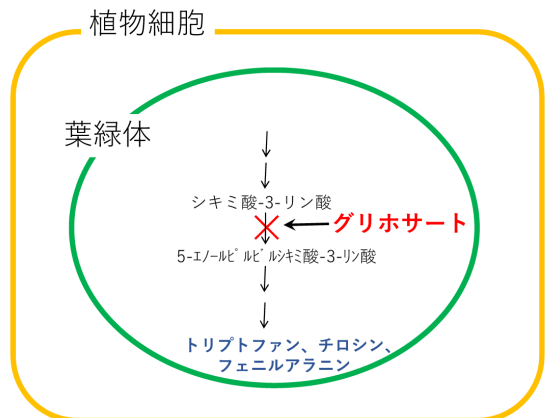


図 グリホサートによるアミノ酸合成阻害